

## 手賀沼におけるムジセッカの記録 (田中 2004) の再検討

小田谷 嘉弥

キーワード：ムジセッカ，ウグイス，再検討

## はじめに

田中 (2004) は、手賀沼におけるムジセッカ *Phylloscopus fuscatus* の初記録を報告した。しかし、掲載された写真と観察記録からは、当報告の個体をムジセッカとするには疑問があり、ウグイス *Cettia diphone* である可能性が考えられるので、以下に観察記録についての再検討を行う。

ウグイスについては、観察地点である本州中部において、越冬期には亜種カラフトウグイス *C. d. sakhalinensis* および亜種ウグイス *C. d. cantans* について生息の可能性がある (日本鳥学会 2012)。しかし、両 2 亜種は冬羽では色彩にわずかな違いしかなく識別が難しい (山階鳥類研究所 2000) ため、ここでは亜種ウグイスのみを検討の対象とした。

## 田中 (2004) の観察記録

田中 (2004) では、当該個体の同定について、以下のように記述している。

- (1) 全体のプロポーションはウグイスに似ている。しかしウグイスよりも小型であり、尾羽の比率もウグイスより短い。
- (2) 上面は暗緑褐色で無地。
- (3) 中・大雨覆に淡色の羽縁は全く見られない。
- (4) 胸部と腹部は汚白色。
- (5) クリーム色の眉斑が目立つ。
- (6) 嘴と脚部のふしよは、細く繊細な印象を受けた。

以上の記述および写真から確認できる外部形態について検討する。

## 観察記録の再検討

## (1) 体サイズと尾羽の長さの比率

ウグイスには顕著な性的二型が存在し、翼長、跗蹠の計測値はほとんど重複なく雄のほうが大きい (山階 1941, Baker 1997)。田中 (2003) では

当個体が「ウグイスより小さい」と記録されているが、比較されたウグイスの性別が記述されていないため、(1) の記述からは大きさについて議論することは難しい。ウグイスの全長は 140-160mm (真木・大西 2000)、ムジセッカでは全長が 110-120mm (del Hoyo et al. 2006) である。全長では重複なくムジセッカの方が小さいが、野外で小型のウグイスの雌を観察した場合、よりムジセッカに近い大きさに見えることは起こりうると考えられる。

尾羽の比率について、写真 1, 2 からはやや短く見えるものの、胴部と尾羽の長さの比率は、角度によって見え方が大きく変化するので、正確な評価が難しかった。また、尾羽上面を撮影した写真は撮影されていなかったため (田中功 私信)、上尾筒から露出した尾羽の長さについて評価を行うこともできなかった。なお、写真 1 では尾羽をやや広げているため、畳まれた通常の状態よりも太短く見えると考えられる。

ウグイス、ムジセッカともに尾羽の長さにも性差がある。ウグイスの雄では 64-78mm、雌では 52-64mm である (Baker 1997)。ムジセッカの尾羽の長さは雄で 49-59mm、雌で 43-52mm であり (Baker 1997)、両種ともメスのほうが短く、ムジセッカの雄とウグイスの雌では計測値が重複している。このため、尾羽が短いことを理由にムジセッカであることは難しい。なお、尾羽の枚数は脱落等がない状態ではムジセッカでは 12 枚、ウグイスでは 10 枚である (山階 1980) が、田中 (2004) においては検討できる写真は掲載されていない。

以上の点より、大きさおよび尾羽の長さからは、本個体がムジセッカであるかウグイスの雌であるか決めることはできなかった。

## (2) (3) 上面の色彩

ウグイスでは体上面がオリーブ味を帯びた褐色である (Baker 1997, 山階 1980) が、ムジセッカでは灰色味を帯びた褐色であり、オリーブ色味はわずかである (Baker 1997, Svensson 1992, Svensson et al. 2009)。田中 (2004) では、(2) のように記載されており、写真 2 から、上背およ

び肩羽は強いオリーブ色味を帯びた褐色であり、灰色味がほとんどないことが確認できる。

本個体の体上面はオリーブ褐色である一方、翼部は赤みのある明るい褐色であり、体上面と翼部の間にコントラストがあることが写真2から分かる。ウグイスでは上背、肩羽などのオリーブ色みが強い一方、雨覆と風切羽の外縁は赤褐色であり (Baker 1997), これらはしばしばコントラストをなして見える (小田谷 個人的観察)。一方、ムジセッカでは上面は一樣である (Baker 1997)。本個体の体上面が強いオリーブ色であること、および体上面と翼部にコントラストがあることは、ウグイスであることを支持する。

#### (4) 体下面の色彩

本個体は (4) で記述されているように体下面は汚白色で、写真からは脇と胸の一部はオリーブ味がかかった灰褐色であるように見える。ムジセッカは体下面が淡い赤褐色味のあるバフ色 (Baker 1997, Svensson 1992) であり一致しないが、ウグイスの特徴 (Baker 1997, 山階 1980) によく一致する。

本個体の下尾筒の色彩は、腹よりも濃い黄褐色に写っている (写真1)。このことは、田中 (2004) には記述がないが、下尾筒の特徴をこのように読み取った結果、本個体がムジセッカと同定された可能性がある。胸、下尾筒が淡褐色に写っているのは、逆光気味である撮影条件が影響したものである可能性がある。そのため、掲載されている写真からは体下面の色彩について評価を行うことは難しかった。

#### (5) 眉斑の色と形状

田中 (2004) の写真3からは、眉斑が確認できるが、全体に太くて輪郭がはっきりしておらず、ムジセッカの細くはっきりした眉斑 (Svensson 1992, Svensson et al. 2009) とは異なる。ムジセッカでは眉斑の輪郭が目より前で明瞭で、目より後ろの部分に比較して白色味が強い (Svensson et al. 2009) が、当個体では眉斑の目より前方は褐色味をおびており、輪郭も不明瞭である。ウグイスにおいては、汚白色 (真木・大西 2000) またはクリームがかかったバフ色 (Baker 1997) の眉斑があり、(5) の記述と一致する。

よって当個体の眉斑の特徴はムジセッカには当てはまらないが、ウグイスの特徴に一致する。また、ムジセッカの類似種であるカラフトムジセッカ *Phylloscopus schwarzi* と異なる。

#### (6) 嘴と脚の大きさ

ウグイスは露出嘴峰長に性差があり、雄では12-13mm、雌では10.8-12mmである (山階 1980)。ムジセッカでは9.5-10.5mmであり (山階 1980)、ウグイス雌の最小値はムジセッカの最大値にかなり近い。脚の太さについては記述のある文献は少ないが、ウグイスでは雄より雌のほうが細く、野外においてもより華奢に見える (小田谷, 個人的観察)。写真2では非常に跗蹠が細く写っているが、これは前面から撮影されている角度の問題が大きいと考えられる。よって、嘴や脚が華奢であることを根拠にムジセッカであると同定することは、本個体に関しては難しい。

田中 (2004) で議論されていない識別点ではあるが、ウグイスとムジセッカでは、地鳴きがはっきり異なる。ウグイスは「チャッ、チャッ」という声で鳴くのに対し、ムジセッカでは「タッ、タッ」という、より乾いた感じの声で鳴くことが多い (真木・大西 2000)。田中 (2004) では地鳴きの記録がされていないので、この点について検討することはできなかった。

#### 結論

以上の再検討結果より、田中 (2004) の観察記録は、ムジセッカの特徴に矛盾しているか、またはムジセッカとするには証拠が不十分であり、ウグイスとしては矛盾する特徴がなかった。よって、撮影された個体はムジセッカである可能性は低く、ウグイスである可能性がより高いと考えられる。本記録は2羽のうち撮影された1羽についての再検討であり、もう1羽については評価することができなかった。

関東平野における冬期のムジセッカの記録は近年増えており、湖沼や河川沿いの草地で観察されている (福田 2009, 日本野鳥の会神奈川支部 2013)。手賀沼周辺においても、鳴き声やウグイスの雌との識別点に注意して観察を行えば、今後確認される可能性は十分あると考えられる。

## 謝辞

観察記録の著者である田中 功氏には、掲載された写真の原画をお送りいただいた。梅垣佑介氏、茂田良光氏には、本稿に対して有益なご意見をいただいた。亀谷辰朗氏、先崎理之氏、高木慎介氏には本個体の同定に対してコメントをいただいた。上記の方々に深く感謝する。

## 引用文献

- Baker K. 1997. Warblers of Europe, Asia and Africa. Christopher Helm publisher, London.
- del Hoyo J., Elliot A. and Sargatal J. 2006. Handbook of the birds of the world, vol 11: Old world flycatchers to old world warblers. Lynx Edicions, Barcelona.
- 福田篤徳 2009. 茨城県におけるムジセッカ（囀りを含む2007年以降の記録）。日本野鳥の会茨城支部報 ひばり 292: 8-9.
- 真木広造・大西敏一 2000. 日本の野鳥590. 平凡社, 東京.
- 日本鳥学会目録編集委員会 2012. 日本鳥類目録改訂第7版, 日本鳥学会, 三田.
- 日本野鳥の会神奈川支部 2013. 神奈川の鳥2006-10 —神奈川鳥類目録VI—. 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜.
- Svensson L. 1992. Identification Guide to European Passerines. Published and sold by the author.
- Svensson L., Mullarney K. & Zetterström D. 2009. Collins Bird Guide 2nd edition. HarperCollins publisher, London.
- 山階鳥類研究所 2000. ウグイス識別マニュアル. 環境省, 東京.
- 山階芳麿 1980. 復刻版 日本の鳥類と其の生態 第二卷 出版科学総合研究所, 東京.

Re-examination of “The first record of Dusky warbler (*Phylloscopus fuscatus*) in Tega Marsh of Chiba prefecture” by Tanaka (2004)

Yoshiya Odaya  
Abiko City Museum Of Birds, 234-3, Kounoyama, Abiko city, Chiba prefecture, Japan

Summary

An observation record of Dusky warbler *Phylloscopus fuscatus* by Tanaka (2004) was re-examined. The photographed individual showed some plumage characters not applicable for Dusky Warbler but fitted for the features of Japanese Bush Warbler *Cettia diphone*.

Key Words: Dusky Warbler, Japanese Bush Warbler, Re-examination.